

と輪島の間付近の寒気内から移流してきたものであるから山頂の観測値と矛盾しない。00Zには輪島、米子の2地点では比湿が同じであるので山頂気温と $T-T_d$ から山頂に到達した元の空気塊の高度を求めると約 700m 下方から上昇してきたことになる(これは富士山にある大きな沢を考えればよいだろう)。

こうして山頂の気温は自由大気中と大きな差を生じたと解釈される。このように大きな差を作る条件は

- (i) 自由大気中では下降運動をし山体に沿って寒気は強制上昇させられること。
- (ii) 大気が乾燥していること。大気が湿っていると山体に沿う上昇運動によって生ずる気温低下は湿潤断熱減率になり温度下降量が小さくなる。
- (iii) 大気の安定度に関係すること。山頂付近が安定層の中にある時に最も大きくなる。

に起因する。この気温差が乱気流とどのように結びつかを推測することは適当ではないが山の風下側で大きな鉛直流を発達させるような要素を充分持っていることは対流実験^りから推測される。

6. 感謝

この報告の作成にあたり伊藤東京航空地方気象台長より多くの御教示をいただいた。又製図は山田睦子嬢にいただいた。なおこの報告は仁科事故調査委員(東京管区気象台長)の命令で行ったものの一部である。記してお礼申し上げる。

文 献

- 1) Schwerdtfeger, W and N.D. Strommen (1964): Structure of a Cold Front near the Center of an Extratropical Depression. Monthly Weather Review **92**, 523~531.
- 2) 小倉義光 (1966): 最近の気象力, 学気象研究ノート **17**, 1~61.
- 3) Angell, J.K (1962): The Influence of Inertial Instability upon Transonde Trajectories and Some Forecast Implications. Monthly Weather Review **90**, 245~251.
- 4) 例えば
Saunders, P.M (1962): Penetrative Convection in Stably Stsatisfied Fluids. Tellus **14**, 177~194.

第4回災害科学総合シンポジウム講演募集

文部省科学研究費特定研究(災害科学)の災害科学総合研究班(研究代表者 徳島大学長 理博 長谷川万吉)が中心となり、災害科学に関する研究発表と討議の機会を提供する目的を以て、下記により総合シンポジウムを開催いたしますので、本学会はこれを後援することにいたしました。ふるって御参加下さるようご案内します。

1. 期 日 昭和42年10月23日(月) 10.00~17.00
24日(火) 9.00~12.00
2. 場 所 仙台市宮城県民会館
3. 講演申込要項
 - (1) 内 容 異常気象, 雪氷災害, 河川災害, 海岸災害, 津波高潮, 地盤災害, 地震予知, 地震動災害, 火山噴火予知, 農林災害, その他
 - (2) 講演申込締切 7月15日, 講演題目, 氏名, 勤務先および講演内容の概要(400字以内)を記し, 下記宛に申込むこと。
 - (3) 講演要旨の提出 締切 8月15日 所定の用紙2枚以内(図表を含む)の講演要旨を下記宛提出のこと。用紙は請求次第送付する。
 - (4) 申 込 先 仙台市片平丁 東北大学理学部地球物理学教室 鈴木次郎 電話(23) 5111・内線3250